

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3071500247
法人名	有限会社 メディカルサービス有田
事業所名	グループホームゆりのき苑
所在地	和歌山県有田市千田403-1 (電話) 0737-85-3977

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年9月11日	評価確定日	平成21年10月9日

【情報提供票より】(21年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	楠本内科医院 ・ 栗原整形外科 ・ 石垣歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ミカン園や畑に囲まれた閑静な住宅地の一角にあって、その玄関は地域に向け大きく開け放たれている。自治会にも加入し、行事には積極的に参加し馴染んでいる。誰でもが気軽に立ち寄りおしゃべりしたり、また野菜等のお裾分けを持ってこられたりと、当たり前のように地域の住人として受け入れられている。小・中・高校の実習生なども積極的に受け入れている。現職員の一人は実習生として訪れた際、ホームの雰囲気が好きになり「ここで働きたい」と希望し勤務している等、職員は介護職として誇りを持ち、意欲的にお互い切磋琢磨して業務に励んでいる。内外の研修も意欲的に参加している。利用者も日常を楽しんで生き生きと暮らしている様子が伺える素晴らしい施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題はない。「いい評価をいただいたので維持、向上に懸命です。」と職員がいい意味での緊張感をもって業務に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は日々の実践の中で話し合いを重ね、職員間で協議の上まとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には民生委員や地区長、市役所担当職員、利用者家族の参加で開催されている。内容はホームの取り組み状況等についての報告で、身近に意見をいただける貴重な機会となっているが開催回数が少ないため、その機会が活かされていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等には来苑時や電話をかけたときなどに積極的に意見を出して貰えるよう働きかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、清掃活動等地域の行事にはあたりまえのように参加している。毎年開催している夏祭りは、近隣の参加者も年々増加し、期待感をもって受け止められている。地域の学童下校時、子供見守り隊(防犯)に散歩も兼ねて意欲をもって参加している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一人として家庭的な雰囲気の中、その人らしく暮らし続けていけるように「自由」「尊厳」「歓び」を盛り込んだ理念をつくり、地域密着型サービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の取り組みの中、運営理念の確認を重ねることで共有を深めており、サービスの向上につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に開かれたホームを目指し、自治会加入はもちろんのこと小学校の運動会やカラオケ大会など地域の行事には積極的に参加している。地区の溝清掃、ゴミ置場の清掃、4年に1度の地区秋祭りにも班の一員として、楽しみ事以外の事も引受け、人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにおいて自己評価、外部評価の再認識、改善等の意見交換をしており、その意義についても十分理解し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地区民生委員、区長、市役所職員、利用者家族等の出席により開催されている。地域の方々の意見・感想が身近に聞け、いろいろな情報交換の場となるが、2ヶ月に1回という開催の予定が大幅に減っている。	○	開催された運営推進会議は充実したものとなっており、さらに地域や家族からの意見を運営上に活かす為にも頻度を上げての開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは電話、来苑、市役所を訪れる等(利用者と共に郵便物を持っていくこともある)の行き来する機会も多く相談や意見の交換をしたり、ともに質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回「ゆりのき通信」を発行し利用者の暮らしぶりや行事、職員の異動等についても写真やコメントをつけて報告している。健康状態に変化があればその都度家族に電話等で連絡をとっている。金銭管理は金銭出納帳を利用者、家族に明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来苑時や電話をかけたとき等に何か要望や不満はないか意見をだしてもらえるよう働きかけ、出てきた意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動者・離職者については、利用者にダメージがないように心掛け、新職員についてはなるべく早く馴染んでもらえるよう声かけをするなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医師や看護師などを講師として招き、ほぼ月1回の割で内部研修を行い夜勤を除くほとんどの職員が参加して、サービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。外部研修は経験等に応じ順次受講するようにしており、受講内容は回覧にて全職員が周知できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム間での情報交換は常時行っている。また県グループホーム連絡会にも加入しており、ネットワーク作りや相互訪問等の機会を設けお互いに良い点を参考にするなどサービスの質の向上に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前見学にて職員・利用者の方々と交流を持ってもらい、不安を感じることなく入居できるように配慮している。また無理強いすることなく徐々に安心感を持ってもらうことからスタートし、家族と連絡を取り合いながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活上で料理、裁縫、畑仕事等利用者の個々の得意分野を発揮してもらえるような場の提供を心がけている。その中で行事の仕方、言い伝え、昔の知恵を授けてもらう等、学ぶことも多く、いろいろな場面で助けてもらうこともある。また不適切な発言があればなおざりにせず、真剣に話し合うなど密な関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の毎日の表情・言動を観察し、記録して希望や要望を把握するように努めている。個々の生活リズムを尊重し、どのような生活を望んでいるかを把握して本人本位に支援している。また一人の職員が聞いた情報は職員全員がチームとして共有し、支援の検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望・意思を第一に尊重し、家族の希望や意向を反映し、またケアカンファレンス会議での意見を参考にして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度の見直しを行っているが著しい変化が見られた場合はケアカンファレンスにより、必要な関係者の意見も盛り込み計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて柔軟に通院、外出、外泊等移送の支援を行い、また医療連携体制の契約を近くの公立病院と結んで、利用者にとっての負担の軽減をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関での受診を支援し、近くであれば職員が同行している。遠方の場合には家族が付き添っている為、わからないことがあれば電話で問い合わせたりして、適切な医療が受けられるよう連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には重度化・終末期の対応があることを説明しており、その際、関係者と何度も話し合っって全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を損なわせないように声掛けには充分配慮し、介護記録などは決められた場所で行い、記録の保管にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの話や家族からの情報などを基にその人らしい暮らしが出来るよう支援している。思い思いに自分のしたいことをしてもらい、自然に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれが持っている力を発揮してメニューから買い物、準備、後かたづけなど職員と一緒にいき、食事が楽しみになるようにしている。季節行事食を入れたりしてさらに楽しめるものとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望日、時間帯に入浴できるよう支援している。夜勤帯以外はいつでも入浴を楽しめるようにしている。隔日に入浴される方もいれば毎日入浴される方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの趣味や特技等を活かして、生活上での役割が楽しみとなるよう支援している。自分で出来ることは自分で行ってもらい、買い物好きな方は一緒に買い物に出かけ、花の好きな方は苗を植えてもらったり、近所に花を見せてもらいに行ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は常時開け放しており、散歩等は自由に入出入りしている。希望者は日常の買い物へも一緒に行っている。また、子供見守り隊としての散歩もしている。中には遠くに行きたくないと言う利用者もおられ外気浴として、苑外の空気に触れる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修にも参加しており、弊害を理解し、日中玄関は開け放しており、自由に入出入りが出来るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力のもと、利用者と共に避難訓練を行っている。近隣、民生委員の方にも協力をお願いしているが開催回数が少ない。	○	避難訓練を重ねて非常災害等に対応することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食把握し、一人ひとりにあった量・調理方法等を提供するようにしている。食事時、間食時、入浴時、夜間等水分の摂取を促している。1日30品目摂取を目標にし、刻み食等個々の利用者にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白内障の方が多いのでカーテンは引いておいたり、食事中はBGMの音楽を静かに流したり、利用者にとって心地よい環境に配慮している。また窓の外には常に季節を感じる景色が広がり、季節の花や行事の飾り付けなどでより一層季節感を出して利用者の目を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた好みの物を思いのままに使用してもらい居心地の良い部屋になるよう支援している。畳を置いて和室のように過ごす方や、家族の写真を飾ったり好きな洋服を壁一面に並べて楽しむ方等様々である。		